

新刊案内

「続・生活数学シリーズ」

第4冊目 刊行！

著書名：明日への生活数学

著者名：元日本大学教授 岡部 進

定価：2000 円(+消費税)

四六判 232 頁 書籍コード:ISBN978-4-9905889-5-3

発売元：生活数学ネットワーク/ヨーコインターナショナル



<http://www.yo-club.com> 〒151-0061 東京都渋谷区初台1-50-4 電話&FAX 03-3299-7246

内容：スマホ時代の到来とともに、スマホ内臓の計算機が活躍をするようになってきました。また、スマホは大量データをグラフ(映像)で伝えるためにグラフ解析の数学が日常化しました。同時に大量データをグラフ化する作業が必要になり、パソコンが必需品です。(第四章)

このようにスマホ時代になって加速度的に数学は生活に深くかかわるようになってきました。数学が生活化したといってもよいでしょう。(第五章)

こうした現象は、数学史を繙くと、いま始まったことではありません。資本主義の発達に伴って、時々と呼ばれてきたことです。なかでも20世紀初頭にイギリスに起きた中等教育数学を改造しようとする「声」は他の資本主義の国々を動かし、10年後に日本にも上陸しました。この「声」(思想)は「数学の生活化」(造語：生活数学)を目指していたといっても過言ではありません。(第一章)

やがて「声」は、大正・昭和初期には国内の中等教育関係者だけでなく、小学校教師たちを動かし、「生活算術」運動になりました。(第二章)

そして昭和20年8月15日、敗戦。国連軍の占領下で教育改革が始まります。けれども、直後の小学校1年用の教科書を見ると戦前の「生活算術」運動が反映していました。また敗戦から7年後の昭和27年(1952年)使用の新制高校数学教科書『解析I』を見ると「数学の生活化」の思想は受け継がれていました。(第三章)

ところが、「数学の生活化」思想は、学力低下論が浮上してまもなく頓挫して現在に至っています。この点については、本書ではわずかししか触れていません。(第一章)

しかし、いま、グローバル化した資本主義下のスマホ時代になって「数学の生活化」は、科学思想となって「生活数学」の対象を拡大しています。(第五章) こうした視点で本書は、次のように構成されています。

☆☆☆【本書の構成】☆☆☆

まえがき—書齋という空間からの声

第一章 「生活数学」提唱の背景—数学を生活に活かす活動の系譜から

第二章 大正・昭和初期の「生活算術」運動—奈良女子高等師範学校教諭兼訓導仲本三二の実践から

第三章 教科書にみる終戦直後の新制高校の数学—歴史と実用の扱い方に示唆あり

第四章 数量的歴史認識の必要性—時系列データに目を向けよう

第五章 スマホ時代の数学的知識—広がる生活数学の中身

あとがき—生活数学ネットワーク活動の13年

ご注文方法

(1) ホームページ・トップ画面にある「本の購入申込」から申込んで下さい。手続き後、代金お振込み確認後に、発送となります。⇒<http://www.yo-club.com>

(2) 尚、電話、FAXでの申し込みは受け付けていませんので、併せて、ご了承ください。

※既刊の「生活数学シリーズ」(10巻)および「続生活数学シリーズ」(3巻)も、販売中です。